

アカガエルの卵を探そう！

芳我めぐみ（千葉市）

日時：2015年2月15日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：41名（大人23名 子ども18名）

担当指導員：芳我めぐみ 山岸文子

好天に恵まれた観察会当日、入り口広場に続々と親子連れが集まって来る。子どもに卵塊を見せたいと教育熱心な親御さんが多いのだろうか。初参加の人も多い。山岸さんが声を張り上げ、注意事項をわかりやすく説明する。アカガエルの卵塊も成体も見たことがない人がほとんどだ。興味津々の参加者と出発！

杉林に入れば足元にはモグラ塚が出てくる。前を歩く人たちが立ち止ると何があったのか後ろ組は気になって仕方がない。ナガバジャノヒゲの葉が短く刈り取られたような跡を見ていた。ノウサギの食痕であることを説明する。モグラ、ノウサギ2種の哺乳類の存在を示すものに出会えて、参加者の皆さんも嬉しそう。

冬枯れの休耕田に産卵場所になるようにと掘られた池がある。毎年最初に産卵が確認される場所の一つだが、足場が悪く近づけない。観察し易い自噴井そばの階段を降り水路へと誘導する。霜融けでぬかるんだ畦道は歩きにくい。水路では早くもオタマジャクシに孵って泳いでいる姿も見られる。田んぼにはたくさんの卵塊がある。私は卵塊をトレーに入れて見せる。触って感触を確かめ声を上げる子。山岸さんはオタマジャクシを掬って容器に入れ見せる。今年はこの時期に卵塊・オタマジャクシ・成体♀（寒さのため？ 力尽きて死んでいた）を同時に見ることができた。ミジンコやミズムシも観察できた。足場が悪く混雑している畦には降りずに観察路にいる人達に向けて石嶋さんに解説をお任せする。生き物を元の場所に返し、上の観察路に戻る。

ベンチ前に集合してまとめの話をした。テーマのニホンアカガエルは冬季産卵をする。お米を生産する田んぼは、圃場整備がされ、冬場水がなく産卵できない。農業の形態の変化と共に急速に生息区域が狭まっている。2012年大草での卵塊数は17個となり非常に心配した。その後徐々に回復し、今年は400個を超えた。卵塊数は年によって増減するが環境（冬季の水、土水路、草地、斜面林）さえ整っていれば、アカガエルは命を繋いでくれることを話した。環境を保つ為、多くの人がボランティア活動をしていることも伝えた。参加者が多く、担当者2名だけでは届かなかったが、非番の指導員3名と生き物に詳しい常連の参加者2名の皆さんが手伝ってくれたので、事故なく終了できた。感謝！参加者の楽しげな顔と「又来たい」は嬉しかった。



るが環境（冬季の水、土水路、草地、斜面林）さえ整っていれば、アカガエルは命を繋いでくれることを話した。環境を保つ為、多くの人がボランティア活動をしていることも伝えた。参加者が多く、担当者2名だけでは届かなかったが、非番の指導員3名と生き物に詳しい常連の参加者2名の皆さんが手伝ってくれたので、事故なく終了できた。感謝！参加者の楽しげな顔と「又来たい」は嬉しかった。